

る。脚部の穿孔は、6箇所を上下に交差するように設置したことにより、3単位の有孔が連続して存在するように構成している。脚部の調整としては、外面を縦位のハケメ調整を配してから全面を縦位のミガキを丁重に加えて消している。内面は、内部は脚上部を斜位によるハケメ調整、下半部を横位のハケメとナデで施している。

土師器高坏「第10図-3」

やや内傾気味を示す椀状の坏部に斜めに垂下する脚部が裾部で外反するのを特徴とする。調整手法は、外面の坏部を横位から斜位に施したミガキ及びヘラ調整を加え、口縁部を横ナデで仕上げている。内面調整は、細い棒状工具で丁重にミガキを施すのが特徴となる。

脚部は、先のB類の器台と同様に縦位のハケメ調整の後に縦位のヘラミガキを縦位に連続してある。内部調整は、内部は脚上部を斜位によるヘラ調整、下半部を横位のハケメとナデで仕上げている。

3) 管玉「第5図版」

OY2の墓壇中央の底面より検出したものである。長さが2.8cm、幅が0.45cmをなす管玉であり、中央からやや斜めに直径0.24cmの穿孔が開けられている。そのため穿孔口の一部が破損面が認められる。石材は暗緑黒色の蛇紋岩製で新潟県糸魚川産とみられる。

第Ⅱ節 考 察

1. 前期古墳の成立と横山古墳の年代

米沢市で確認されている前期古墳と推測される古墳は、横山古墳を含めた7古墳群14基と古墳発生等に関するとみられる方形周溝墓が検出された4遺跡が現在までに確認されている。

この中には、周辺地域の大半を統括し、最も優位に立った首長墓と考えるのが寶領塚古墳と成島2号墳の大型古墳である。前者は全長80mの前方後方墳、後者は全長60mの前方後円墳であり、両者とも山形県を代表する4世紀段階の古墳である。

また、米沢地区外の米沢盆地全体の視野でみれば、川西町の天神森古墳（前方後方墳・全長75m）、南陽市の稲荷森古墳（前方後円墳・全長96m）も4世紀段階の首長墓となる。これらの首長墓は、最近の調査と出土土器の分析から、各地域で独自に発展成立した首長級の古墳と考えられ、米沢盆地の支配区分を明確らに表示していると捉えられている。

ただし、畿内を中心に絶大な勢力拠点をもつ所謂「大和政権」との関連性が問題となる。平成9年に山辺町で確認された天神大塚古墳は、4世紀後半の畿内型円筒埴輪を有する2段構築の円墳と判明し、大和政権の勢力拡大を進めていた東北遠征部隊の責任者の墓の可能性を示唆する一方、大和政権に同盟服属した有力首長墓の可能性も指摘されている。

このように、大和政権下で進められていた東西統一における侵略手法や米沢盆地の有力支配層の動向が気になるところである。

さて、米沢盆地における古墳の発生と成立について考えてみる。現在、最も古いとされるのが比丘尼平遺跡から検出された方形周溝墓で、方形周溝墓3基・竪穴住居後1棟・土壙6基が

検出されている。遺物は、東海地方のパレス型土器に類似した口縁部特徴をもつ壺型土器や甕型土器、二重口縁を有する壺型土器、頸部に凹線をもちハケメ調整を主体とする埴、二段口縁を示した器台等、県内でも最古級の4世紀前半代の土師器類が出土している。同じく大清水遺跡の方形周溝墓内からは、関東地方から搬入したとみられる台付甕が検出しており、これも4世紀中葉を降らない時期といえる。

横山古墳の土師器は、器台・埴・高坏の3機種がみられる。基本となる調整は、ハケメで施しているが、その後ミガキを加えて仕上げるのが特徴となる。器台は、脚部が斜に下降するA類と外側に大きく開くB類とに分けられるが、完全にハケメを消す手法までは発達していないことからみると4世紀の中葉前後の時期が与えられる。A類に属する器台に関しては、現在のところ県内では確認されておらず、福島県会津群板下町の杵ガ森古墳出土の器台に類似している。この次の段階の時期にあたるのが大清水遺跡竪穴住居跡の一括土器で、長頸の二重口縁壺形土器や甕・高坏・埴などが認められ、塩釜式の新しい段階の仲間と考えられる。同様な土師器としては、川西町の天神森古墳出土の底部穿孔土器・同古墳出土高坏、南陽市蒲生田古墳群の長頸壺型土器・同稲荷森古墳出土の器台があり、概ね4世紀の後半から末に求められる。

5世紀代の詳細に関しては省略するが、5世紀の前半～中葉段階を代表する土師器としては、八幡堂遺跡の方形周溝墓、大清水遺跡の竪穴住居跡群一括土器、二タ俣A遺跡の竪穴住居跡群一括土器が検出されている。5世紀後半段階に位置するものとして、上浅川方形周溝墓と八幡塚古墳から出土している。

以下、6世紀以降は省略。

2. 米沢盆地における古墳の変容と年代

既に述べているように横山古墳は、現時点での最古の古墳となる。平成9年に山辺大塚古墳において、県内最古の埴輪を有する古墳を発見し、新たな県内の古墳文化を見直す時期にきているといっても過言ではない。横山古墳は、当初中世の塚と推測していただけに、これまでの丘陵に分布する中世墳墓並びに塚郡と認知している遺跡の再検討をする時期にきている。

一方、古墳と登録している大半の古墳についても同様に、古墳の有無も含めて総合的に精査すべきである。特に、南陽市に分布する多くの古墳群に関しては、早急な調査が望まれる。

第14図に示した古墳分布図は、県内の前期古墳と中期古墳に属するものと推測される古墳を図示したものである。米沢盆地をみると、南端の横山古墳から北端の河井山古墳までの範囲がほぼ20kmの範囲に集約される。また、山形盆地の古墳分布に際しても、南端の土矢倉古墳から北端の山辺町坊主窪古墳群までが同様に20kmの範囲に加わっている。

これらは、偶然の一致と考えることもあるが、県内における古墳文化の発展と山形盆地と米沢盆地の古墳成立がしばしば比較検討されてきた。しかし、山辺大塚古墳の発見によって、山形盆地と米沢盆地の古墳成立は少なくともかなり近い時期に導入された可能性も指摘され、今後の調査研究にかかる責務は大きいものといえる。

以上のことを加味し、米沢盆地における古墳の発生から古墳終焉までの変遷を現段階の推測

や希望も含めた課題を提起する前提で第1表に示した。ここでは、推測される可能性を簡単に整理しておくことにする。

第1段階〈4世紀前半〉「準備段階の時期」

- ・比丘尼平方周溝墓(米沢市) ・大清水方形周溝墓(米沢市)

第2段階〈4世紀中葉〉「古墳発生期」

- ・横山1号、2号墳(米沢市) ・経塚山古墳群(南陽市) ・龍樹山古墳群(南陽市) など

第3段階〈4世紀中葉～後半〉「成立期(首長墓出現期)」

- ・竇領塚古墳(米沢市) ・成島2号墳(米沢市) ・戸塚山195号墳(米沢市) ・天神森古墳(川西町)
- ・雁境古墳(川西町) ・稲荷森古墳(南陽市) ・蒲生田古墳群(南陽市) ・経塚山古墳群(南陽市)
- ・龍樹山古墳群(南陽市) など

第4段階〈5世紀前半〉「古墳発展期」

- ・戸塚山182号墳(米沢市) ・戸塚山140号墳(米沢市) ・成島1号墳(米沢市) ・三月在家古墳(米沢市)
- ・下小松61墳(川西町) ・下小松98墳(川西町) ・経塚山古墳群(南陽市) ・龍樹山古墳群(南陽市)
- など

第5段階〈5世紀後半〉「古墳定着の時期」

- ・戸塚山139号墳(米沢市) ・戸塚山137号墳(米沢市) ・窪平古墳(米沢市)
- ・西方古墳群(米沢市) ・下小松古墳群(川西町) など

第6段階〈6世紀代〉「古墳分散期」

- ・戸塚山138号墳(米沢市) ・戸塚山181号墳(米沢市) ・戸塚山34号墳(米沢市) ・戸塚山180号墳(米沢市)
- ・戸塚山178号墳(米沢市) ・窪田古墳(米沢市) ・河合山古墳群(長井市) ・下小松古墳群(川西町)
- ・松沢1号、2号墳(南陽市) など

第7段階〈7世紀代〉「横穴古墳成立期」

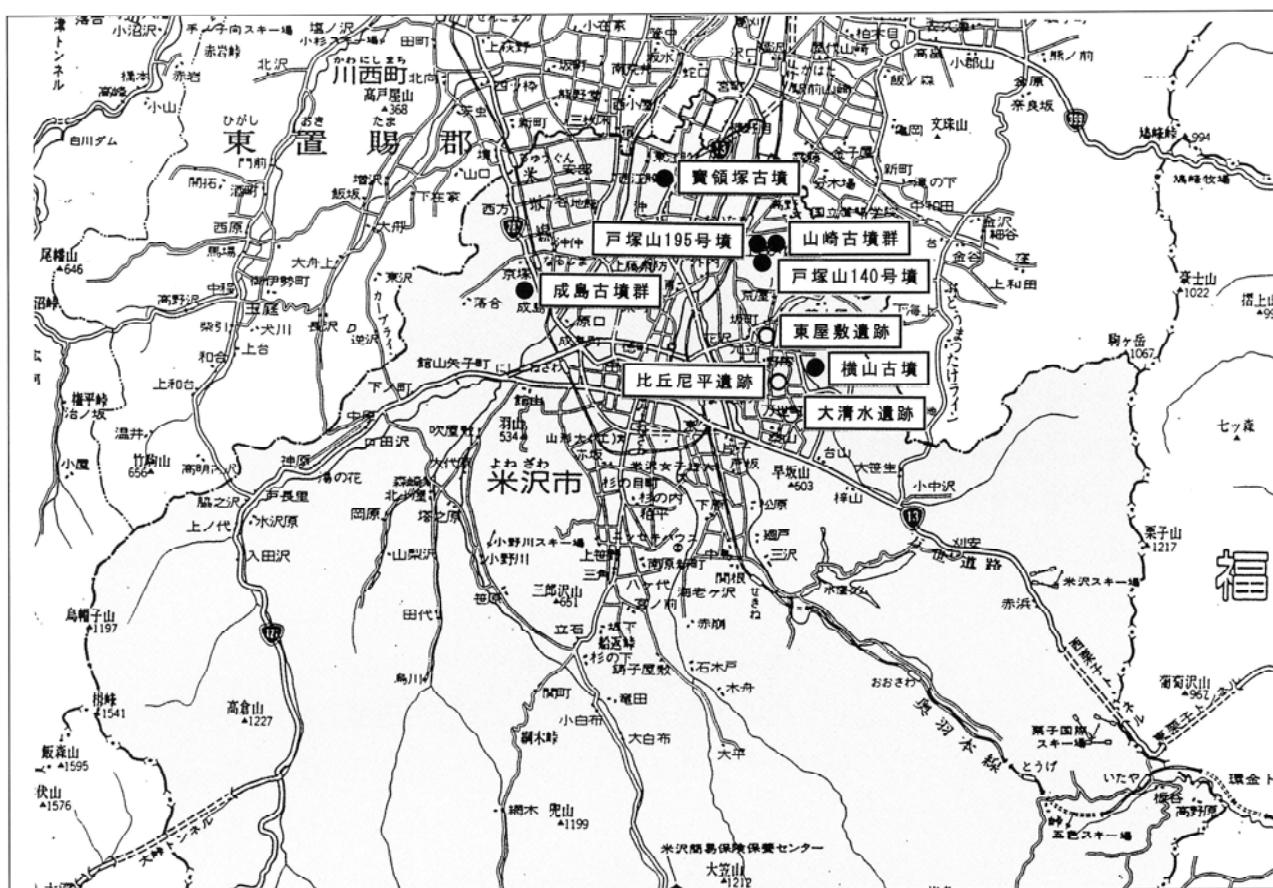
- ・戸塚山189号墳(米沢市) ・戸塚山179号墳(米沢市) ・戸塚山74号墳(米沢市) ・戸塚山43号墳(米沢市)
- ・戸塚山59号墳(米沢市) ・長手古墳群(米沢市) ・天神裏古墳(米沢市) ・木和田古墳(米沢市)
- ・戸塚山古墳群(米沢市) ・蒲生田1号墳(南陽市) ・二色根1号墳(南陽市) ・安久津古墳群(高畠町)
- ・金原古墳(高畠町) など

第8段階〈8世紀代〉「古墳終焉期」

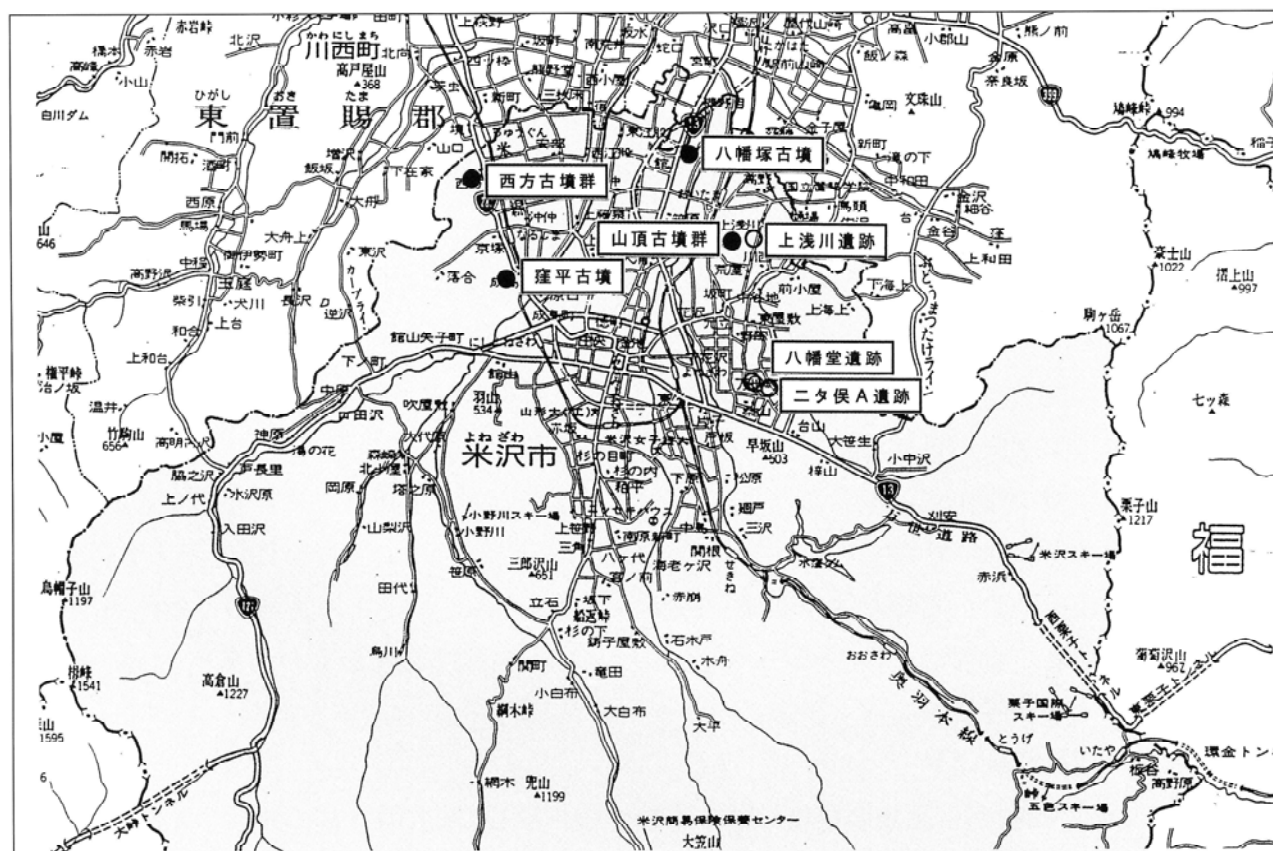
- ・西光寺古墳群(米沢市) ・皇大神社古墳群(米沢市) ・戸塚山古墳群(米沢市)
- ・牛森古墳(米沢市) ・鳥居町9号墳(高畠町) ・北目1号墳(高畠町) など

以上のような8段階の古墳変容が想定される。特に重要な発生期から成立期について付け加えれば、米沢盆地で出現した4世紀前半段階の墓制としては比丘尼平遺跡や、大清水遺跡でみられるような方形周溝墓が主流であった。4世紀の中葉になると今回の横山古墳のような比較的低い丘陵を選定して構築する小規模も方墳が出現する。同様な構造の古墳群は、米沢市の戸塚山山崎古墳群の一部や成島古墳群、川西町の下小松古墳群(6支群)、南陽市の蒲生田古墳群・経塚山古墳群・龍樹山古墳群の尾根や丘陵に分布している。

この中で調査を実施した蒲生田古墳群と下小松古墳群の支群である雁境古墳はいずれも4世



前期古墳



中期古墳

第11図 米沢市前期・中期古墳分布図(1)

●古墳 ○集落跡

紀後半を指しているが、他の古墳の大半に関しては未調査であることから横山古墳と同様な時期の古墳も存在する可能性が高いとみている。

繰り返すようだが、南陽市宮内地区の丘陵に沿って分布している経塚山古墳群と龍樹山古墳群に関しては発生期段階の古墳が存在する可能性が高く、前期古墳から中期古墳にかけての継続型の群集墳と推測される。

そして、4世紀の後半段階に入ると成島2号墳、寶領塚古墳、稲荷森古墳、天神森古墳等の地域首長墓が次々と出現した。これらの古墳は、僅かな時間的空間の中で成立したものと推測され、主要河川を境界とする支配範囲が少なくとも4区域ほどに分割していたことを物語っている。5世紀に入ると米沢盆地の支配権は、東の戸塚山古墳群と西側の下小松古墳群の二者に概ね統一されたものとみられる。

6世紀段階になると、南陽市から長井市、高畠町と小規模な古墳が広範囲に出現する。これらの古墳は、大和政権の弱体化につけ込んだ地方の豪族等が小規模支配層の拡大を測り、次々と跋扈していった様子を示すものであろう。

7世紀に入ると朝廷を中心とした律令国家が誕生する。大化の改新の直後に陸奥の国が置かれ、置賜地域は置賜郡衙として陸奥国の管轄に編入される。戸塚山古墳郡を中心とした高畠地区から南陽市東北部（赤湯周辺）の3地区に限定して構築された横穴式を有する古墳群は、律令体制に参入した豪族や役職者等の墳墓と考えられる。これらを裏付けるように7・8世紀の官衙跡と推測される遺跡も前述した3地区に痕跡を残している。

3. 米沢市における古墳分布と主要古墳

米沢市内には、第11図で示すように、ほぼ米沢市街地の範囲に広がっている。現在までに確認された古墳としては、戸塚山古墳群の195基を筆頭に31個所の古墳及び古墳群、269基となる。第2表参照。

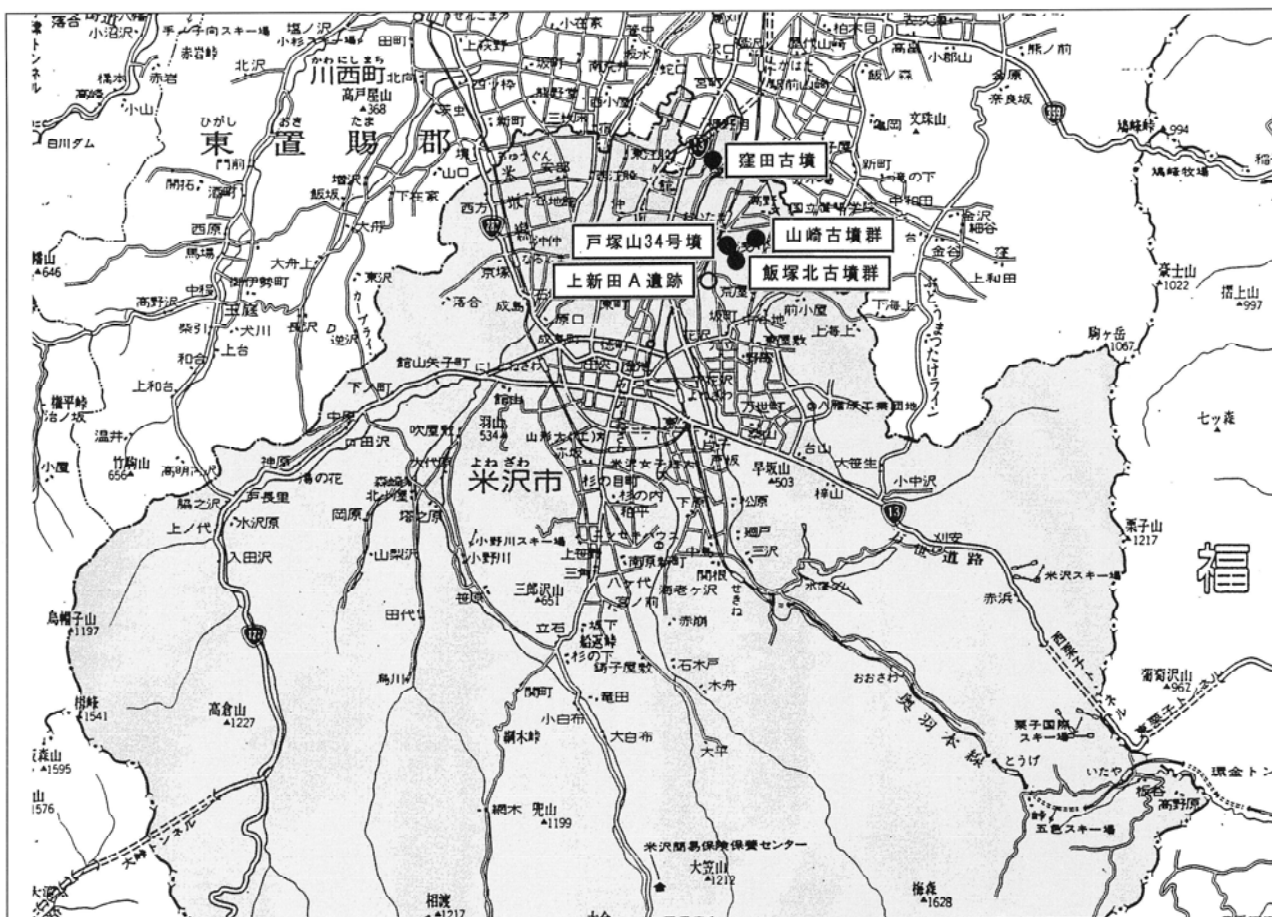
横山古墳の発見は、現時点での県内最古の古墳と位置づけられる。しかも、米沢盆地における古墳の発生や成立、それに大和政権の進出や影響に重要な意味をもつ。そこで、米沢市で確認されている主要古墳について紹介しておきたい。

①西方古墳群「大字下小菅字西方」

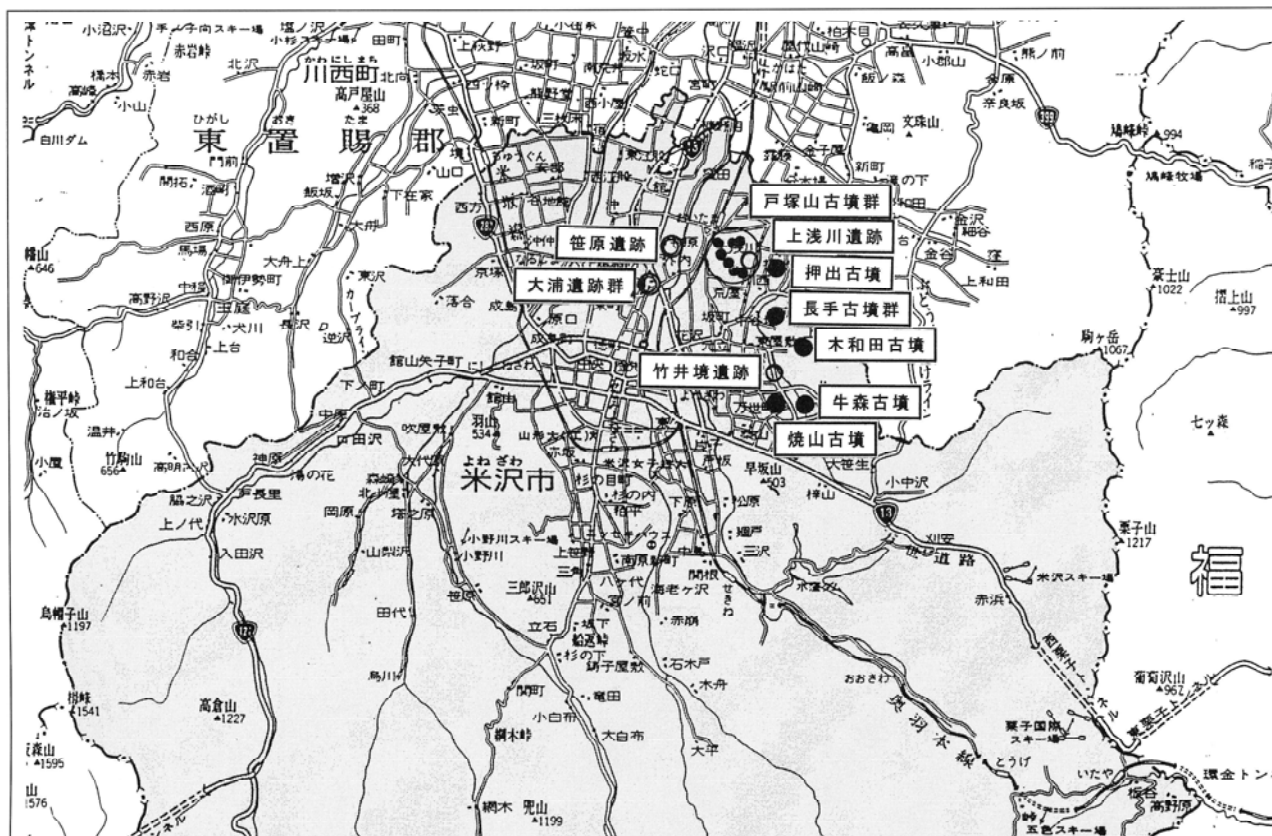
成島丘陵の東側中腹から山麓にかけてM1号墳～M4号墳の4基の方墳が分布する。正方形のプランを示し、所謂中世の「土墳」に類似していることより当初、中世の塚と考えていたが、ボーリング検査の結果、版築状況や立地、周溝の状況を加味したところ古墳の可能性が高いものと判断している。方墳は、M4号墳の20mを最大に15m前後を有するものが多く、1.5m～2.5mの周溝を伴うのが特徴である。確証はないが、概ね5世紀代の古墳群と推測している。

②成島古墳「広幡町成島」

標高327.2mの山頂から北側の尾根に沿って前方後円墳1基と方墳5基の6基の古墳群で構成されている。この中で、南端に位置するM1号墳は全長60m、後円部径が30mで高さが4.7m、前方部長30m、前方幅が20mを測り、前方部2段・後円部3段を構築する前方後円墳である。



後期古墳



終末期古墳

第12図 米沢市後期・終末期古墳分布図 (2)

●古墳 ○集落跡

後円部の東墳麓には陪塚と推測される長軸13mの方墳M2号墳が存在する。

M3号墳～M6号墳は、M2号墳から西側に約70mほど離れた尾根に沿って分布しているもので、長方形プランを基本とした15m～23mの規模を有している。形態的には、横山古墳と類似していることを考慮して、4世紀代の中頃に遡る可能性も考えられる。

④三月在家古墳「広幡町成島字三月在家」

丘陵を削平して整形盛土した一辺28mの方墳である。南側と西側に周溝が確認される。土墳の可能性も指摘されていたが、版築が明瞭なことから古墳と考えている。

⑤窪平古墳「広幡町成島字窪平」

成島八幡神社境内の西側の平坦部に位置する約15mの円墳で、幅約2mの周溝が伴い単独で存在する。6世紀代の可能性を考えている。

⑥賓領塚古墳「窪田町窪田字北賓領」

平成元年に確認調査を実施している。前方部は既に圃場整備によって失われているが、トレンチ調査で周溝が確認されている。それによると3段構築を有する全長80mの前方後方墳と推測され、全面に葺石を伴っていることが判った。現長40m、幅47m、高さ5.4mを測る。成島古墳群の存在からき鬼面川を境にした東側一帯を支配下に置いた首長墓と推測される。後方部と前方部の比率が6:6を示すことから同じ川西町の天神森古墳の前方後方墳6:4.5よりは幾分先行して構築されたものとみられる。概ね4世紀の中葉頃と考えている。

⑥八幡塚古墳「窪田町窪田字八幡塚」

昭和63年にトレンチによる確認調査を実施している。全長27.6m、高さ3.26mの2段構築の円墳で不規則な周溝が全周している。西側には不自然な張り出しを有しているのが特徴である。周溝内からは、壺形土器・甕形土器を中心とした破片が出土しており、二タ俣A遺跡の土師器と類似していることから南小泉式に併行する5世紀後半の年代が妥当と考えている。

⑦窪田古墳「窪田町外ノ内」

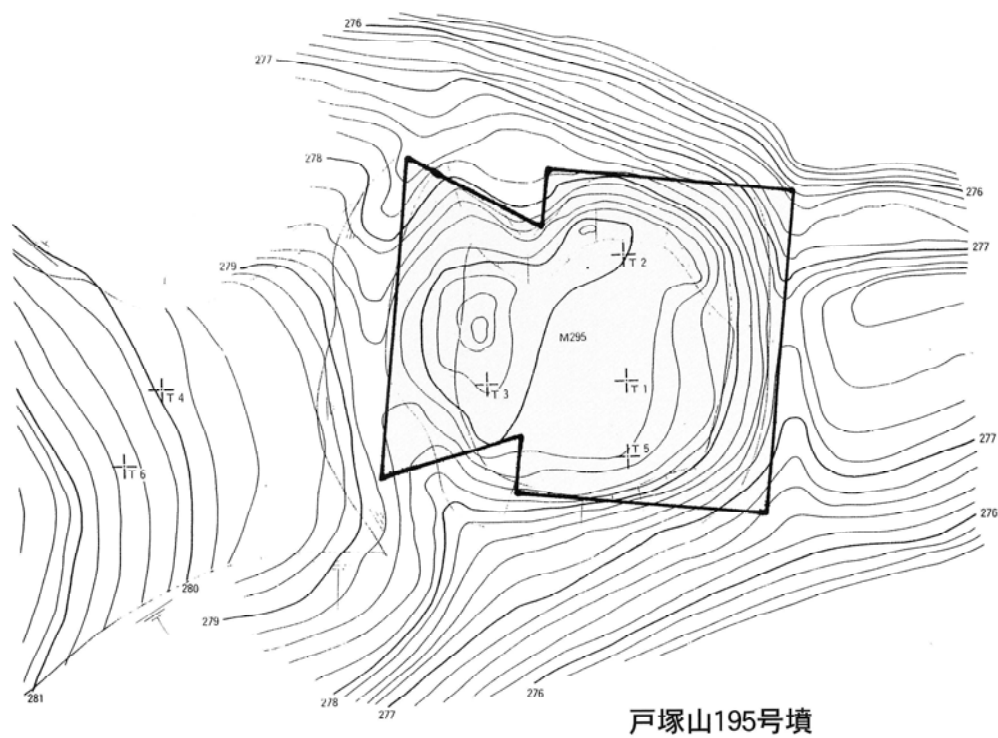
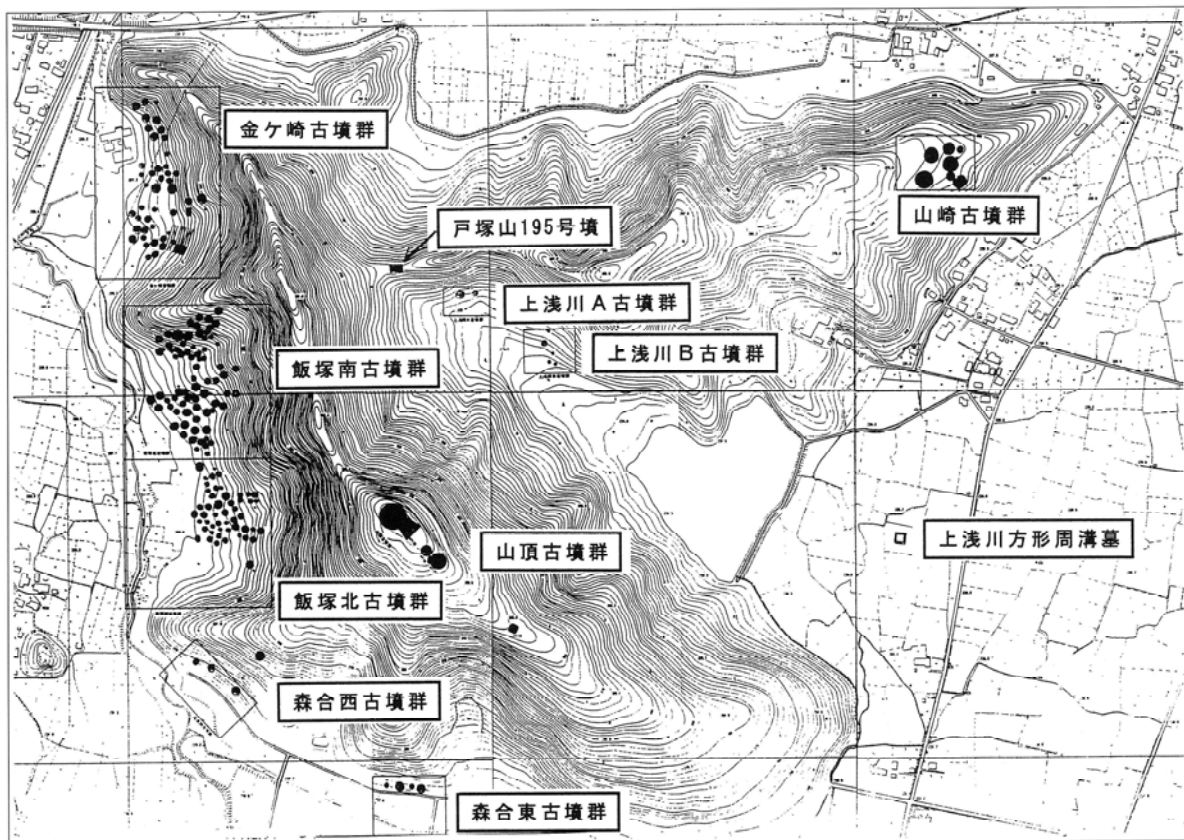
一辺16mを有する方墳で、市道によって西側の一部が失われてある。周囲の農地の影響等もあって、大半が埋没した現況となっており、現高で1.5mを測る。八幡塚古墳とほぼ同じような5世紀後半頃に位置するものと考えている。

⑧戸塚山古墳群「大字浅川」

戸塚山は周囲約6km、標高356mの単独の丘陵で、山頂から山麓にかけた南斜面を利用して金ヶ崎古墳群45基、飯塚北古墳群74基、飯塚南古墳群49基、森合西古墳4基、森合東古墳群4基、山頂古墳群4基、上浅川A古墳群2基、上浅川B古墳群5基、山崎古墳群7基の9支群と尾根に単独に存在するM195号墳を加えた計195基の古墳が現存している。

また、終戦後に飯塚北古墳群と金ヶ崎古墳群の一部にブドウ園造成を行っており、その際に約20～30基位の古墳が破壊され、既に消滅している。このことを考慮すれば、少なくとも220基前後の古墳が存在したものと推定される。

これらの古墳群を形態的に分類すると横穴式石室を主体とした円墳が187基、方墳4基、帆立貝式古墳2基、前方後方墳1基、前方後円墳1基となる。



第13図 戸塚山古墳全体図

第1表 米沢盆地古墳編年表（試案）

・調査確認古墳

年	米 沢 周 辺	川西町周辺	南 陽 市 周 辺
200			
300	・□比丘尼平方形周溝墓 ・□大清水方形周溝墓 ・■横山2号 ・■横山1号 ・■寶領塚 ●成島2号 ■戸塚山195号	・■天神森 ・■雁境塚	■●●経塚山、龍樹山 ・■蒲生田3号、4号 ・●蒲生田2号 ・●稻荷森
400	■成島1号 ■三月在家 ●八幡塚 ■戸塚山140号 ●戸塚山139号 ●戸塚山137号 ■西方 - 窪平	●下小松61号 ●下小松98号 ↓ ↓ ↓	■●●経塚山、龍樹山 ↓ ↓ ↓
500	●戸塚山138号 ●戸塚山181号 ■窪田 ■戸塚山34号 ●戸塚山180号 ●戸塚山178号		●松沢1、2号
600	●戸塚山189号 ■戸塚山175号 ●戸塚山74号 ●戸塚山43号 ●戸塚山59号 ●戸塚山群集墳 ↓ ↓	●天神裏 ●長手2号 ●木和田 ●長手4号	●蒲生田1号 ●二色根1号 ●赤湯古墳群 ↓ ↓
700	↓	↓	↓

第2表 米沢市内の古墳一覧表

遺跡 No.	古 墳 名	所 在 地	数 量	形 態	時 代	a 規模 ・ b2 調査 ・ c その他
A-3	長手古墳群	大字長手城山	9基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 8～20m b 1983 1012～1017 c 1号・2号墳の2基は指定文化財
A-9	天神裏古墳	大字長手長峯山	1基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 14m
A-17	上浅川 a 遺跡	大字浅川字平江壇 2055番地他	1基	方形周溝墓	古墳中期 (5世紀中葉)	a m×m c 大蓮寺窯の須恵器蓋1点出土
A-29	上浅川堤入 b 古墳群	大字浅川堤入 2204番地他	5基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 8～12m b 1983 4027～4030 c 市指定文化財
A-32	金ヶ崎古墳群	大字浅川金ヶ崎	45基	円墳（横穴式古墳）44基 方墳（横穴式古墳）1基	終末期～後期古墳 (6世紀末～8世紀)	a 7～43m b 1983 4027～4030 c 市指定文化財
A-33	飯塚北古墳群	大字浅川字 飯塚2147番地他	74基 (30)	円墳（横穴式古墳）	終末期～後期古墳 (6世紀末～8世紀)	a 5～20m b 1983 4011～4020 c 市指定文化財
A-34	飯塚南古墳群	大字浅川字飯塚 2151番地他	49基 (15)	円墳（横穴式古墳）	終末期～後期古墳 (6世紀末～8世紀)	a 5～20m b 1983 4011～4020 c 市指定文化財
A-35	森合東古墳群	大字浅川字千刈	5基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 12～18m b 1983 4021～4026 c 市指定文化財
A-36	山頂古墳群	大字浅川堤入	4基	前方後円墳1基・帆立貝 式古墳2基・方墳1基	古墳中期～古墳後期 (5世紀後半～6世紀中葉)	a 前方後円墳（全長54m）・帆立貝式古墳（全長21～26m） 方墳（全長14m） b 1982 5010～6001 c 市指定文化財・人骨1体、鹿角製刀子1点、擬獅3点出土。
A-37	上浅川堤入 a 古墳群	大字浅川堤入	2基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 8・12m b 1983 4027～4030 c 市指定文化財
A-38	山崎古墳群	大字浅川平江壇	7基	円墳・方墳 (竪穴式古墳・横穴式古墳)	古墳中期～終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 13～24m b 1983 4027～4030 c 市指定文化財
A-48	比丘尼平遺跡	万世町堂森字比丘 尼平田540番地他	3基	方形周溝墓	古墳前期 (4世紀中葉)	a 6～12m b 1978 1027～1108
A-54	大清水遺跡	万世町桑山字 大清水	1基	方形周溝墓	古墳前期 (4世紀中葉)	a 5.6m b 1980 7028～1030
A-60	八幡堂	万世町堂森八幡 堂295他	5基	方形周溝墓	古墳中期 (5世紀前半)	a 5～11m b 1981 4001～6030
A-76	牛森古墳	万世町牛森字 清水北	1基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (8世紀末)	a 15m b 1975 5001～6007 c 市指文化財、県内最南端の古墳
A-215	木和田古墳	大字木和田字 月原756番地	1基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 15m b 1997 1020～1105 c 県内最大の横穴式古墳
J-306	八幡塚古墳	窪田町窪田字 八幡堂2934番地	1基	円墳	古墳中期 (5世紀中葉)	a 27m b 1988 6004～7022 c 張出のある円墳
A-309	牛森山古墳	万世町牛森	2基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 8・11m
J-317	賓領塚古墳	窪田町窪田字北宝 領883～1番地他	1基	前方後円墳	古墳前期 (4世紀中葉)	a 80m b 1989 4003～4028 c 3段構築、全面葺石、周溝有
A-320	薬師山古墳	大字上新田字森合	7基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 6～11m
A-321	皇太神社古墳群	大字上新田字森合	6基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 5～12m
A-322	西光寺古墳群	大字上新田字森合	7基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 6～10m
A-327	森合西古墳群	大字上新田字森合	3基 (5)	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	a 12～16m
A-337	堂田古墳群	大字上新田字森合	(21)基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半～8世紀初頭)	c 消滅
J-401	窪田古墳	窪田町窪田字 外の内	1基	方墳	後期古墳 (6世紀)	a 16m
J-602	成島古墳群	広幡町成島字 御嶽堂	6基	前方後円墳1基 方墳5基	古墳前期～古墳中期 (4世紀末～5世紀末)	a 前方後円墳（全長60m）・方墳（全長10～17m）
J-641	窪平古墳	広幡街成島	1基	円墳	古墳後期 (6世紀)	a 15m
A-264	横山古墳	大字竹井字横山	2基	方墳	古墳前期 (5世紀)	a 13.5m b 1999 7001～7030 c 墓壇3基・土師器埴1点・高杯1点・器台3点・管玉1点
I-392	西方古墳群	大字下小菅字西方	4基	方墳	古墳中期 (5世紀)	a 15～20m
I-296	三月在家古墳	広幡町成島字 三月在家	1基	方墳	古墳中期 (5世紀)	a 28m
A-670	戸塚山 195 号墳	大字浅川堤入	1基	前方後円墳	古墳前期 (4世紀)	a 前方後円墳（全長15m）

この中で注目される古墳としては、全長54mの前方後円墳M139墳（5世紀後半）、主軸長24mと15mの帆立貝式古墳M137号墳・M138号墳（5世紀後半～6世紀初頭）、それに15mの方墳M140号墳（4世紀末～5世紀初頭）が山頂にかけて分布する。さらに、山崎古墳群は10m～24m円墳7基で構成するもので、5世紀初頭から6世紀にかけた古墳群と推測している。山頂から山崎古墳群にかけた尾根の中心部には15mの小型の前方後円墳1基が単独で存在し、戸塚山古墳群の中では最古（4世紀末）の古墳と考えられる。

古墳が集中する金ヶ崎・飯塚南・飯塚北古墳群の中腹にかけた範囲には大型の円墳が分布しており、6世紀代から7・8世紀にかけて継続的に構築された群集墳とみられる。

戸塚山古墳は4世紀末頃から古墳の築造が開始され、5世紀代に首長墓が成立する。6世紀代に入ると階層拠点となる古墳が中腹に出現し、7・8世紀の終末期の段階で爆発的に古墳が築造された特異な長期継続型の古墳群である。

⑨押出古墳（天神裏古墳）「大字長手字長峰山」

長峰山の北端山麓に単独で存在する横穴式石室を有する山寄式の円墳で、既に盗掘を受けている。玄室は東南側に開口するもので、天井石や側壁、羨道の大半が失われている。現存する石室から想定される主体部としては、玄室幅1.7m、玄室長が2.5m、羨道幅1m、羨道長2.5mの全長5m前後を示すものと推測される。

内部からは直刀の鏝2点と鉄鏃数点が認められているが、時期を決定するような遺物は認められていない。平面形態が細長い樽状を示すことや玄室の石材に凝灰岩の割石を多様している特徴から7世紀の前半頃に位置するものとみられる。

⑩薬師山古墳群「大字森合字薬師山」

戸塚山の南側に存在する平地から約20mの高さの単独丘陵で、5m～8m前後を有する小規模な古墳が山麓に15基確認されている。

⑪西光寺古墳群「大字上新田字森合山」

標高292mを有する単独丘陵の森合山東山麓に10m～15mの山寄式の円墳5基が確認されており、7・8世紀代の終末期古墳とみられている。

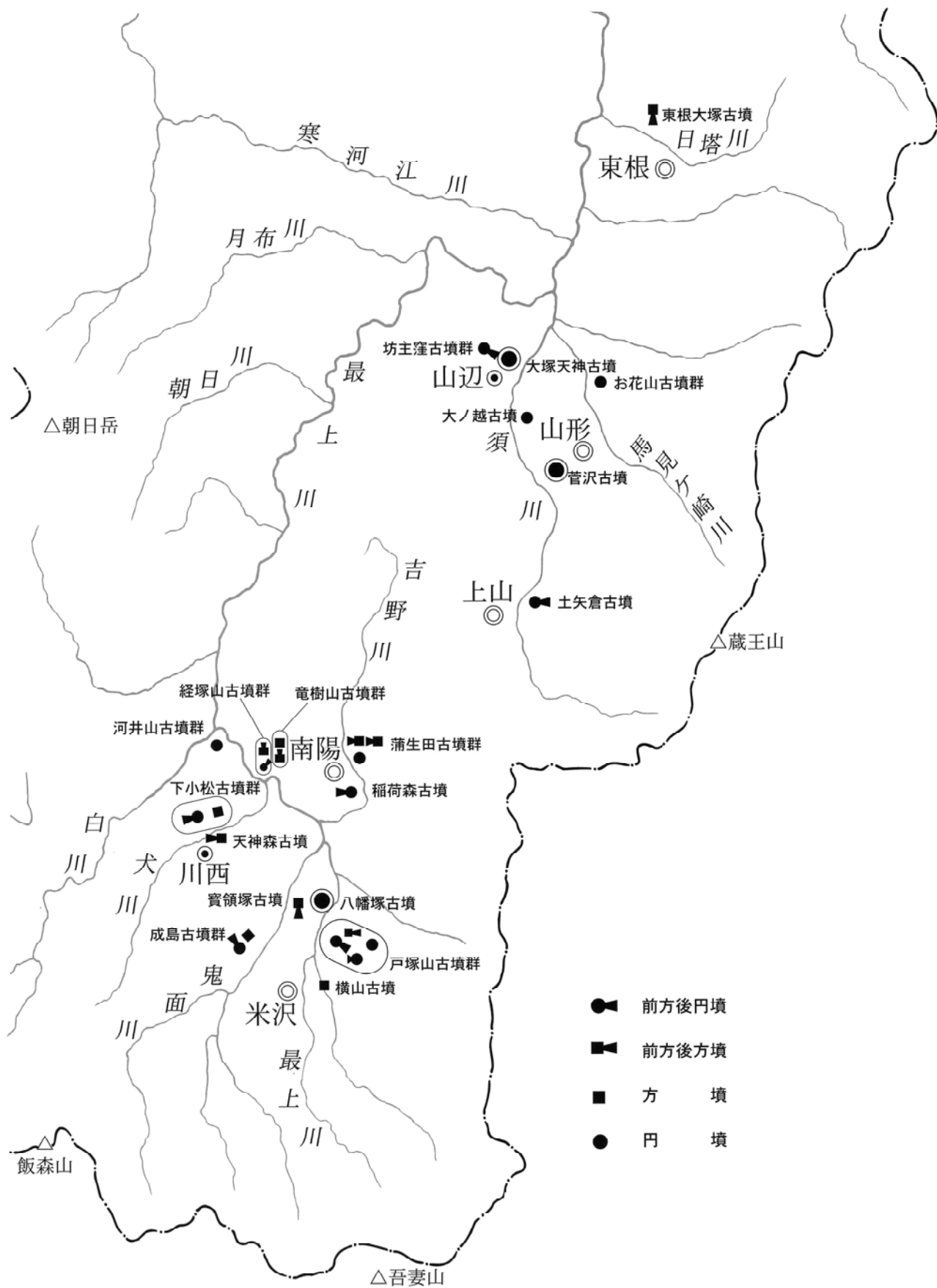
⑫皇大神社古墳群「大字上新田」

森合山の南山麓に分布するもので、5m～6mの小規模円墳が3基確認されている。8世紀代の終末期古墳と考えている。

⑬長手古墳群「大字長手字城山」

城山の南山麓に第1号墳～第5号墳からなる5基の円墳が分布している。このなかで、第2号墳と第4号墳の調査を実施している。前者の2号墳は、12mの円墳で全長5mの横穴式石室をもつ。後者の4号墳は、中世の段階で天井石を撤去して埋め戻され、中世墳墓に利用されている。主体部は比較的明瞭になっており、玄室の長さが2.5m、幅1.8m、羨道の長さ2.26m、幅1.5mで全長が5.15mを測る。遺物は、前庭部より追葬したものと推測される8世紀前半の土師器杯4点、須恵器高台杯3点と骨蔵に転用した古瀬戸瓶子1点が検出している。

⑭木和田古墳「大字木和田字月ノ原」



第14図 山形県の前期・中期古墳分布図

ブドウ園造成によって昭和26年に発見され、その際に調査を柏倉氏が実施している。平成9年に確認調査を実施したが、玄室を除く大半が失われている。玄室は凝灰石の切石を利用して構築したもので、玄室長が3.5m、幅1.6m、現長1.5mを測るもので、現在確認されている置賜地方の横穴式石室では最大規模をなす。7世紀中葉期の終末期古墳と考えている。

確認された周溝からの推測される規模は東西12.9m、南北15.8mと想定された。

⑮横山古墳「大字上竹井字横山」

木和田地区の南西側に張り出した標高275m丘陵の尾根に存在する古墳で約13mの方墳である。平成11年の調査で古墳と判明したもので、木棺直葬と考えられる墓壙3基が東西方向に検出されている。古墳のほぼ中央に配置されてある2号・3号の墓壙は地山を掘り込んだ約4m、幅1.25m前後を有するものであるが、北端で確認された長軸4.7m、幅1.1mの1号墓壙は盛土上面から掘り込まれているので、後の段階で埋葬されたものと判断された。断面からの観察から木棺の幅としては、約60cm前後であったものとみられる。

遺物は、2号・3号の盛土上部より土師器器台4点と埴1点が設置された状況で出土している。主体部からは2号墓壙に管玉1点が認められた以外は検出されなかった。古墳の年代としては、土師器の特徴より4世紀中葉と考えられ、当地方の発生期段階の古墳として注目される。

⑯焼山古墳「万世町牛森字焼山」

標高306mの焼山東山麓に存在する古墳で、約15m、高さ3mを有する山寄式の円墳である。

⑰牛森古墳「万世町牛森字前川原」

昭和50年に発掘調査を実施した古墳で、約8mの円墳と想定される。主体部は、奥壁一部と玄門に凝灰岩を用いた以外は、河原石を積み上げて構築しており、玄室と羨道が「T」字形を有する特異なものであった。玄室長が3m、幅1mに長さ3m、幅1.25mの羨道をもつ。

遺物としては、鈴帯金具7点と須恵器蓋1点が検出されており、8世紀中葉頃の年代を考えている。

4. 要 約

今回の横山古墳の発見は、米沢盆地の古墳の成立が4世紀中葉期に遡るもので、大和政権の影響が予想以上に早い段階で当地区に及んでいたことを示している。4世紀中葉の時期は、北関東地域の古墳進出とほぼ同時期となるものである。また、前述しているように米沢盆地には4世紀後半段階で、寶領塚古墳などの大型首長墓が4箇所存在している。これらの大型古墳と同じ時期には、蒲生田古墳群や雁境塚古墳等の小規模な前期古墳も最近になって発見されている。こうした古墳は、大型古墳と同一基軸の中で出現したと思われていた。

しかし、これらの首長墓に先行する時期の小規模古墳が確認されたことは、大型古墳が成立する以前に小規模な地域を治めていた長期的指導者の存在を具体的に示したものだといえる。

その後、大和朝廷による同盟・服属対策の急速な浸透と影響は、地域の自衛権を行使するために地域の小規模集団を統一する地域国家を成立させた。その最も優位に立った指導者の存在が天神森古墳・稲荷森古墳・成島2号墳の首長墓である。

今後は、同様な小規模古墳の調査と大型古墳の関連性を究明し、より具体的に米沢盆地における古墳文化が成立したかを究明してゆきたい。

参考文献

- 1 西村真二 1938 「置賜盆地の古代文化」『東置賜郡史』(上巻)
- 2 柏倉亮吉 1953 『山形県古墳』「山形県文化財調査報告書 第4輯」山形県教育委員会
- 3 川崎利夫 1964 『辺境における古墳文化の特質』『日本考古学の諸課題』
- 4 柏倉亮吉・武田好吉・小野忍 1969 『土矢倉古墳群発掘調査』上山市教育委員会
- 5 伊東信雄・伊藤玄三 「会津大塚山古墳」『会津若松市 別巻1』会津若松市
- 6 加藤 稔 1973 「最上川流域における古墳文化の展開」『最上川流域の歴史と文化』工藤定雄教授還暦記念論文集
- 7 柏倉亮吉他 1976 「牛森古墳」『米沢市八幡原工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書第2集』
米沢市教育委員会
- 8 川崎利夫 1977 「出羽地域における古墳の成立」『考古学研究第24巻2号』考古学研究会
- 9 伊藤鎮雄・保角里志 1979 「稻荷森古墳」『昭和53年度調査概報』山形県立博物館
- 10 佐藤鎮雄 1982 「置賜地方の古墳—南陽市周辺古墳をみる中心として—」『まんざり創刊号』まんざり会
- 11 手塚孝・菊地政信 1983 『八幡堂遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第8集」米沢市教育委員会
- 12 加藤稔・手塚孝 1983 『戸塚山137号墳』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第9集」米沢市教育委員会
- 13 藤田宥宣他 1984 『分布調査報告書』「川西町埋蔵文化財調査報告書 第7集」川西町教育委員会
- 14 川崎利夫 1985 「最上川流域における古墳文化の生成と展開」『流域の地方史』
- 15 手塚 孝 1985 『米沢の古代文化』まんざり会
- 16 加藤稔・藤田宥宣 1986 『天神森古墳発掘調査報告書』「川西町埋蔵文化財調査報告書 第9集」川西町教育委員会
- 17 手塚孝・菊地政信 1986 『大清水遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第17集」米沢市教育委員会
- 18 藤田宥宣他 1986 『下小松墳丘群小森山支群 第61・64号墳調査報告書』「川西町埋蔵文化財調査報告書 第10集」
川西町教育委員会
- 19 藤田宥宣他 1986 『下小松墳丘群鷹待場支群 第105・106・186号墳調査報告書』「川西町埋蔵文化財調査報告書 第11集」
川西町教育委員会
- 20 加藤稔他 1987 『菅沢2号墳の発掘調査』山形市教育委員会
- 21 手塚 孝 1988 『比丘尼平遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第21集」米沢市教育委員会
- 22 川崎利夫 1988 「山形南半における終末期古墳の様相」『山形考古 第4巻第2号』山形考古会
- 23 藤田宥宣他 1988 『下小松墳丘群薬師沢支群 第143・145号墳調査報告書』「川西町埋蔵文化財調査報告書 第12集」
川西町教育委員会
- 24 手塚 孝 1989 <八幡塚古墳の発掘調査>『遺跡詳細分布調査報告書 第2集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第25集」米沢市教育委員会
- 25 手塚孝他 1989 『戸塚山古墳群詳細分布調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第10集」米沢市教育委員会
- 26 藤田宥宣他 1986 『下小松墳丘群小森山支群 第65号前方後円墳調査報告書』
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第13集」川西町教育委員会
- 27 吉野一郎・茨城光裕 1989 『稻荷森古墳発掘調査報告書』「南陽市埋蔵文化財調査報告書 第4集」南陽市教育委員会
- 28 加藤稔他 1989 『菅沢2号墳発掘調査報告書』山形市教育委員会
- 29 加藤稔他 1989 『坊主窪1号墳予備調査報告書』「山辺町埋蔵文化財調査報告書2」山辺町教育委員会
- 30 手塚 孝 1990 <寶領塚古墳の発掘調査>『遺跡詳細分布調査報告書 第3集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第27集」米沢市教育委員会
- 31 国学院大学 1990 『河井山遺跡群学術調査報告書』国学院大学考古学資料館
- 32 国学院大学 『河井山遺跡群第1号墳学術調査報告』「国学院大学考古学資料館紀要6」河井山遺跡学術調査団
- 33 手塚孝他 1991 『寶領塚古墳の発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第31集」米沢市教育委員会
- 34 手塚 孝 1992 <成島古墳群の発掘調査>『遺跡分布調査報告書 第5集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第32集」米沢市教育委員会

- 35 加藤 稔 1994 『地方の概要 出羽 前方後円墳集成』東北関東編
- 36 吉田博行 1995 『杵ガ森古墳発掘調査報告書』「会津坂下町文化財調査報告書第33集」会津坂下町教育委員会
- 37 高橋千晶 1995 「置賜地方の切石石室－石室構造の観点から－」『山形考古第5巻3号』山形考古学会
- 38 茨城光裕 1997 『大塚天神古墳第1次調査』「山辺町埋蔵文化財調査報告書2」山辺町教育委員会
- 39 手塚孝・菊地政信 1998 <木和田古墳の発掘調査> 『遺跡詳細分布調査報告書 第11集』
「米沢市文化財調査報告書 第61集」米沢市教育委員会
- 40 井田秀和他 1998 『安久津古墳群の発掘調査』「高畠町埋蔵文化財調査報告書 第6集」高畠町教育委員会
- 41 手塚孝・菊地政信 1999 <天神裏・長手古墳群の発掘調査> 『遺跡詳細分布調査報告書 第12集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第65集」米沢市教育委員会
- 42 茨城光裕 1999 『大塚天神古墳第2次調査概報』「山辺町埋蔵文化財調査報告書2」山辺町教育委員会